

12月も半ば過ぎ。今年も残すところ本当にわずかとなりました。少しは掃除しなきゃ、年賀状を書かなきゃ、お正月の準備もしなきゃ、と気ばかり焦る日々ですが、きっとそれは皆さまも同じような状況ではないでしょうか。今年は農閑期になっても休むどころか益々忙しいO2Farm。その理由をお知らせしたいと思います。

先月から、家作りをしています。といっても10坪ほどの小さな家ですが、大工さんに教えてもらいながら耕太がせっせと作っているのです。この家、ただの家ではありません。大津家の山から切り出してきた間伐材で作っているのです。何年も前から森林組合に申請していた間伐作業が実施されることになったとの連絡が1月頃ありました。そして2月に30年物の杉が切り出されることに。正確には、切ったのは森林組合、出したのは耕太。林道が整備されていない場所では、山から運び出すと赤字になるので「切り捨て間伐」という方法が全国的に増えています。耕太が桔平や連蔵と同じ歳の頃、祖父母が植林し、下草刈りや枝打ちという手入れをしてきたスギ林。せっかくここまで手入れして育てたものを山で腐らせてしまうのはあまりにももったいない！ということになったのです。



近くの製材所で製材してもらい、それを一昨年まで育苗に使っていた小さなビニールハウスで乾燥させます。面取りは私の父が東京から応援に駆けつけ、1週間がかりでしてくれました。立派な角材がなんと100本近くも！私の母は設計士で、お隣さんは大工さん。役者は揃っています。いずれはやりたいと思っていた農家民宿にするのもいいな。使い道はいろいろ考えられます。ル・コルビジエという世界的に有名な建築家が建てた、「終の棲家」は8畳(約4坪)ほどの小さな家。小さい空間って落ち着くだけでなく、手入れがラクで、温めるのもラク。そして作り始めて分かったのですが、次々と作業が進むので、作り手にとっても楽しくやれるのです。



11月9日に簡単な地鎮祭をした後、基礎工事開始。遣り方(やりかた)という測量をした後、溝を掘って石と生コンを入れ、更に全体に生コンを敷き詰めることで基礎のできあがり。その後から、柱や梁などの切り込み作業が始まります。大工さんがどの材をどこに使うか考えて、墨付けをしていき、丁稚の耕太がそれを見ながらノミで刻んだり、ノコギリで切ったり。およそ10日間かけて、全ての「ほぞきり」という作業を終えました。組み立てるのは男性4人がかりで、あっという間。ほぼ1日で組みあがってしまいました。小さいとは言え、家は家で



すので、「しとぎ」と呼ばれる棟上げのお祝いをしました。小さな餅を袋に詰め、屋根の上から投げる「餅投げ」もして、近所の子供たちがキャーキャー言いながらお餅を拾い集めていました。



もちろん、やってみると大変なこともたくさんあるようですが、前から大工仕事に興味があった耕太は毎日本当に楽しそう。私も猫の手として現場の手伝いをすることがありますが、毎日10時と3時のオヤツを時間通りに出すのがお役目です。写真は、米粉で焼いたカボスシフォンケーキ。他にもおはぎやみたらし団子、かぼちゃマフィンなどなど、手を変え品を変え作っています。今は屋根と床ができ、これから内外装工事に入るところで、完成は来春になると思います。子供たちにとっても面白そう。3歳の讃太郎は覚えているかどうか分かりませんが、もうすぐ6歳になる桔平・連蔵の記憶には残ることでしょう。見よう見まねで、現場から出た木っ端に古釘をとんかちで打ち付けています。



さて、家づくりプロジェクトだけが多忙な毎日の理由ではありません。この1カ月、なぜか講演や視察受入れの依頼がいくつもあって、私も忙しくしています。変わったところではゆうきフェスタという、熊本で12年も続いている有機農業関係のお祭りで行った司会進行。寒い日でしたが、天気が良かったのでお客さんも多くてにぎわいました。他にも「全国グリーンツーリズム大会」というのが今年は阿蘇で開かれ、そのパネラーに呼ばれたりもしました。その合間に、大根や人参の間引き、里芋の収穫・貯蔵と菜園の手入れも行います。



そして恒例のお餅つき。前々日から水に浸しておいたもち米を、外のかまどで蒸してはつき、ついでには丸め、近所のおばちゃんと友人に手伝ってもらい、口八丁手八丁でワイワイと作りました。あつあつのお餅を手でちぎるのはかなりの技。握力も必要なので、私の役目。それを二人の助手さんがきれいに整えてくれます。新年を迎える準備が着々と進み、あとは元気に年の瀬を迎えられれば、言うことなし。皆様もどうぞよいお年をお迎えください！